

科目名	キャリア・R e - デザイン						
英語科目		ナンバリング	GCTal102				
開講期	春学期集中, 秋学期集中	開講学部等	共通教育科目	配当年次	1 年次	単位数	2 単位
教員名	川出 健一, 中澤 正江, 松尾 智晶						

授業概要 / Course outline

「とりえず大学に来たという感じがぬぐえず、勉学への意欲が湧かない」「偏差値で学部を選んだので専門科目の授業に関心が持てない」「大規模講義が多く、なかなか友達ができないので、大学に居場所がないと感ずることがある」「人見知りな自分をなんとかしたいと思うが、行動に移せない」こんな気持ちになったことはありませんか？

この科目は、このような状態にある学生を対象とし、①受講生仲間との交流のなかで、自己/他者に意識を向ける；②クリエイティブな作業を通して自分の周りの他者（他の受講生、授業を運営する教員やファシリテータ、社会人）と対話を深め、多様な価値観を共有する；③多様な価値観によって成り立っている社会に自分はどうか関わっていくのかを考える；というプロセスをたどることで、受講生がそれまで自分を縛っていた価値観を問い直し、自分自身の価値観を自立的にかたちづくっていくことを支援します。

この科目でいう「自立」とは、自分の将来に向けて行動を起こす際、周囲の流れにまかせて受身の判断をするのではなく、周囲と調整しながら自分で考え自分で決めて行動することを指します。もしあなたが、冒頭に述べたような停滞感、孤立感を感じているのであれば、学年を問わず早めの受講をお勧めします。この科目は教員ファシリテータ・社会人ファシリテータ・学生ファシリテータの複数人によって授業を運営します。ファシリテータおよび受講生が対等の立場で、安心して交流できる場づくりと対話を実践する科目です。

* 受講希望者多数の場合、抽選となります。最後までこの科目で学んでみたいという意思の強い方に受講していただきたいと考えています。

授業形態、授業方法等 / Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：グループワーク / プレゼンテーション）

毎回の授業でグループワークがあります。また提示されるテーマに対する自分のイメージを表現する機会もあります。

- ・実務経験のある教員による授業

この科目は以下の点で「実務経験のある教員による授業科目」に相当します

- 1) 科目の設計および授業の運営において中核的役割を果たす教員が、キャリア教育で培ったアクティブラーニングやファシリテーションの手法を用いながら、受講生自身が個人・グループ・チームの様々なレベルで産出する発言、テキスト、スピーチおよびそのフィードバックを促すデザインになっていること。
- 2) 受講経験を持つ学生ファシリテータが、教員と緊密なチームワークを構築しながら授業運営に参画していること。

授業内容・授業計画 / Course description・plan

◆春学期は2年次生～4年次生60名を対象に、秋学期は1年次生～4年次生60名を対象に、1クラスは20名前後で複数クラスを同時開講します。内容は以下のとおり：

【第1・2回】4月17日/10月2日(水) 3・4時限

目的・テーマ：2つのワークショップを通して自己と他者の違いを知る

プログラム：①「アートコミュニケーション」クレヨン画による自己表現を通してグループ内での自己と他者の違いに気付く；②「自分史を語る」これまでの人生を折れ線グラフに表し、ライフストーリーを語ることで、初対面の他者との対話を試みる。

【第3・4回】5月8日/10月16日(水) 3・4時限

目的・テーマ：クラスでの居場所づくり

プログラム：「対話のプラットフォームづくり」個人ワーク・ペアワーク・グループワークを組み合わせた、各クラス独自のプログラムを通じて、クラスの構成員全員が互いの名前呼び合える関係性をつくり、安心して対話を深める環境を整える。

【第5・6回】5月22日/10月30日(水) 3・4時限

目的・テーマ：クリエイティブな作業を通して他者との価値観・人生観の違いを共有する その1プログラム：

「物語創作ワーク」自分を主人公にした物語をフィクションのかたちで創作する

【第7・8・9回】6月5日/11月13日(水) 3・4・5時限(※)

目的・テーマ: クリエイティブな作業を通して他者との価値観・人生観の違いを共有する その2プログラム:
「物語創作ワーク」創作したものを発表し、共有する

【第10・11回】6月19日/11月27日(水) 3・4時限

目的・テーマ: 仕事世界の多様な価値観を知る。

プログラム: 「社会人との対話」グループごとに1セッション40分の対話またはインタビューを2回実施することで、社会人との対話を深め、仕事世界の多様な価値観を知る。

【第12・13回】7月3日/12月11日(水) 3・4時限

目的・テーマ: これまでのふりかえりと課題の設定”

プログラム: 「これまでの振り返り」各クラス独自の方法で授業体験を体系的にふりかえり、自己の現状と課題について自己内対話をさらに深化させる基盤づくりを行う。

【第14・15回】7月17日/12月25日(水) 3・4時限

目的・テーマ: 自己内対話の成果をスピーチで共有し、フィードバックを返すことで、新たな対話への道を開く。

プログラム: 「5分間スピーチ」

(※) 第7・8・9回のみ3・4・5 講時開講(5講時はオンデマンド形式)

準備学習等(事前・事後学習) / Preparation and assignments

【第1・2回】ワークショップを通して自己と他者の違いを知る

【事後・事前学習の要点】①によって意識化された自己/他者意識を日常の人間関係に応用し、家族、友人、アルバイトの同僚との関係を見つめなおすきっかけにしてみてください; ②において見知らぬ他者への自己開示が自分にどのような変化をもたらしたかを考えてください; ①と②の結果を次回授業にどうフィードバックするか、自分のなかで整理し、メモに残しておいてください。これが次回への事前学習となります。

【第3・4回】クラスでの居場所づくり・関係づくり

【事後・事前学習の要点】クラスの仲間たちとの関係づくりをしていくうえで、自分がどこまで対話を深めることができたか、ニックネームで呼び合うことで関係がどう変わったか、じっくり考えてみてください。その成果を整理付け、関係づくりの点で自分の課題は何かを考え、メモに残してください。こうしたプロセスが次の「物語創作」の事前学習となります。

【第5・6回】クリエイティブな作業を通して他者との価値観・人生観の違いを共有する その1

【事後・事前学習の要点】物語創作の進捗にあわせ、授業中に完成できなかった人は完成をめざしてください。完成したら、次回授業でどう発表するか、じっくり考えておいてください。

【第7・8・9回】クリエイティブな作業を通して他者との価値観・人生観の違いを共有する その2

【事後・事前学習の要点】物語創作を通じて見えてきた自己と他者の人生観、職業観、価値観の違いについて、ひとりになったときにじっくり考え、整理しておいてください。またクラスメート、家族、友人アルバイトの同僚たちと意見交換を試みてください。自分の人生観、職業観を整理しておくことが、次の社会人との対話の事前学習となります。

【第10・11回】仕事世界の多様な価値観を知る

【事後・事前学習の要点】合宿を通じて見えてきた自分の人生観、職業観が、ここでは社会人の人生観、職業観と照らしあわされてどう変化したか、じっくり考察してください。またこの文脈での現在の自分の課題は何かじっくり考え、その考えを次回授業でどう表明するか整理し、メモに残しておいてください。そのことが次回授業の事前学習となります。

【第12・13回】これまでのふりかえりと課題の設定

【事後・事前学習の要点】対話を通じて仕事世界から自分が学んだものは何か、またそこから見えてくる自分の課題は何か、整理しメモに残してください。ここで整理したものが次回授業の5分間スピーチの準備となります。

【第14・15回】自己内対話の成果をスピーチで共有する

【事後学習の要点】他者に向けて自分の計画を語ることでどのような変化が自分に生じたか、また他者のスピーチに触れたことで自分がどう変わったか、じっくり考え、メモに残してください。こうした振り返りが最終レポートに向けての準備ともなります。

なお、事前・事後学習とも各授業につき2時間必要です。上記内容を確認して、しっかり事前・事後学習を行っ

てください。

授業の到達目標/Expected outcome

周りの他者との対話を深めることで価値観の多様性に気づき、さらに自己内対話を深めて自分の現状を客観視する視点を獲得することで、自立に向けて一歩踏み出せる状態になっていることを到達目標とします。

身に付く力として、具体的に以下を設定しています。

1. 第三者の視点で自分を見つめなおすことを通じて自己分析・自己理解を深める力が身に付きます。
2. 自己と他者との対話、自己内対話を深めることで、対話力が身に付きます。
3. 自己理解が深まることで明らかとなる自己の欲求や意思を、行動目標として表現する力が身に付きます。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- ・主体性

履修上の注意/Special notes, cautions

履修上の注意

1. 以下のような学生に向けた授業です。理解したうえで履修するようにしてください。
 - 大学での勉学や大学生活全般に対するモチベーションを高めたいと考えている。
 - 自分に自信が持てず、成長しているという感覚が持てない状態を変えたいと考えている。
 - 自己理解の深化、他者との交流を促進したいと考えている。
2. 授業期間中に、教員及び社会人ファシリテータによる任意参加の面談があります。
3. 受講希望者多数の場合、抽選により受講生が決定する科目ですので、学期途中での履修中止はお控えください

評価方法/Evaluation

授業参加への意欲40%、成長の度合い20%、最終レポート40%、計100%で評価します。詳細は授業初回で具体的に説明いたします。

※ 3分の2以上の出席・課題提出が無い場合は「/（出席日数不足）」の評価となります。

※ 「最終レポート」は授業内容の総括的内容であるため、未提出は「K（棄権）」となります。

教材/Text and materials

教材は、その都度説明もしくは配布します。

（参考図書）

『大学授業で対話はどこまで可能か - 「21世紀の教養教育」を求めて-』 鬼塚哲郎・川出健一・中西勝彦 編著、中沢正江・松尾智晶他6名著（ナカニシヤ出版、2024）

：この科目の具体的な運営、授業設計の基本的な考えをリアルに著した書籍です。

質問や相談の方法/Instructor contact

クラス担当教員のメールアドレス等を授業中に共有します。

授業期間内に教員と受講生の面談の機会をもちます。詳細は授業内で説明いたします。

その他/Others

この科目は、自分のありようと向き合うこと、他者・環境と自分がどのように関わっていくのが自分にとってよいのか、を徹底的に考え、対話して「自立」することを支援します。

あなたの「自立」がどのような形になるのか、やり方になるのかは、あなた自身が決めることです。それは、どのような大学生活を送るのか、どのようなキャリアを歩み、どのように生きていくのか、というテーマに直結します。クラスの授業運営はフラットで自他尊重を重視しながら温かい対話をつうじて進めますが、授業のテーマは自分の生き方をみつめなおして将来につながる道をデザインするという、興味深くかつ重要な内容です。

学び合いの質を高めるには、参加者のやさしさや思いやり、真剣さ・正直さ、そして新たな知見を学び気づく楽しさの3点が大切である、という方針を大切にしている科目です。

* 受講希望者多数の場合、抽選により受講生が決定する科目ですので、学期途中での履修中止はお控えください